



# 恵田小新聞

平成30年

5月

第146号



## 平成30年度 全校児童52名 新しい恵田っ子

しんか | 進化・深化・新化 |

校長 牧野 守

わたしにとつて恵田の七回目の春は急ぎ足で駆け抜け、新緑・若葉が目に見え、鮮やかな初夏を迎えました。夏鳥が今年は少し早めに恵田にやってきましたように思います。新入生六名を迎え、平成三十年度が全校児童五十二名でスタートしました。

今年度は、「しんか | 進化・深化・新化 |」をテーマに、恵田っ子の成長、恵田小学校の発展を、保護者・地域の皆様との連携を通して図っていきたく思います。これまで取り組んできたことが、「さらに進んでいく」ように、「深まって」いくようにしたいと思えます。また、「新しい」こともできたかと考えています。

今年度は、「ブドウや米などの栽培活動」「落ち葉スキー」など特色ある活動を進化・深化を図るとともに、「落ち葉スキー」や「一輪車」で新しいことができないかと考えています。また、少人数の強みを生かして学校運営を行いたいと思えます。さらに、保護者、学区の皆様と手を取り合ってPTCA（CはコミュニティII地域のC）の活動を充実させ、「めぐみの学校の子」のいっそうの成長へとつなぎたいと思えます。

### 恵田学区の宝物

PTA会長 飯塚 俊之

新緑も濃さを増し、過ごしやすい季節となりました。新学期を迎えた子供たちもそろそろ生活のリズムに慣れ、落ち着きを取り戻してきたことと思えます。本年度PTA会長を務めさせていただくにあたり、ご挨拶をさせていただきます。

私が恵田小学校へ足を運ぶようになってはや十年が経ちました。生徒数の減少や先生方の顔ぶれが変わっていく中、恵田小でしか学ぶことのできない、豊かな自然の中での教育、たくましい体づくり、礼儀と思いやりの心が、今も脈々と受け継がれていることは、校長先生をはじめ先生方、地域の方々のご努力に他なりません。人生を振り返ると、幼少期はたくさんの方々の出が詰まっていると思えます。卒業生が今もなお、学校行事に参加いただける理由は、そうした学校や地域への思いが強いからこそと考えます。人間関係が希薄な昨今、小学校生活を通じ、地域とのつながりを手にできることは、幼少期の人間形成において、重要な宝物となるでしょう。

創立一四三年と長い歴史のある小学校で、微力ながらお手伝いさせていただけることに喜びを感じ、子供たちの大切な思い出づくりに尽力させていただきます。また皆様方におかれましては、子供たちの健やかな成長のためにも、これまでと変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。